

高齢ホームレスを巡回支援



厚労省が医療チーム補助

細かいケアで路上脱出を

高齢化しているホームレスを支援するため、厚生労働省は来年度から、看護師など医療の専門職をつくるチームが、地域を巡回する事業を各地で始めることになった。長期間、路上で暮らす中で、疾患や障害など



長期間、路上生活をしてきた62歳の男性(右)に話し掛け、全身の健康状態をチェックする看護師(左)が、ホームレスの巡回支援事業の一環として、路上で暮らす高齢者や障害者などを対象に、巡回する医療チームが、地域を巡回する事業を各地で始めることになった。長期間、路上で暮らす中で、疾患や障害など

複数の問題を抱える人も目立つ。関係者は「きめ細かいケアを継続的にできれば、路上から抜け出せる人が増える」と期待する。冷えた11月下旬の夕方、防寒着に身を包んだ看護師や医師ら4人が、ホームレスの人がいる公園や路上の見回りを始めた。「体調、どうですか」と一人一人に声を掛け、血圧を測る。5分程度のやりとりの後、「良かったら相談に来てください」と呼び掛けた。

これは東京都台東区が、路上生活が長い人をケアしようとして、2016年春から毎月行う巡回事業。こうした取り組みが、厚労省の新しい事業のモデルケースと見られている。

この日、声を掛けたホームレスは35人で、多くは60〜70代。事業を受託するNPO法人「山友会」の理事長で、毎月巡回する医師の大脇甲哉さんは「全国的にホームレスの人数が減ってきた中で、今も路上に残されている人は、心身に問題があるケースが珍しくない。いかに信頼関係を築き、息長くケアできるかが鍵です」と話す。



路上に段ボールを敷いて横になっていた男性(左)を診察する医師の大脇甲哉さん(右)が、東京都台東区で巡回する医療チームの一環として、路上で暮らす高齢者や障害者などを対象に、巡回する医療チームが、地域を巡回する事業を各地で始めることになった。長期間、路上で暮らす中で、疾患や障害など

のチームによる巡回を想定しており、実施する自治体に人件費の一部を補助する。

大脇さんは「医療職が、実績のある地元支援団体とうまく連携すれば、比較的スムーズに巡回できるのではないかと考えている。広島市内では、慢性疾患に詳しい看護師らのグループが、広島県社会福祉士会などと協力。06年からほぼ週一回、ホームレスの全身状態を診断、必要に応じて医療機関につないでいる。

当初から関わる広島大学院医歯薬保健学研究所の森山美知子教授は「重症化して救急医療や入院が必要になれば、国の医療費の増大にもつながりかねない。濃く関わっていく人材を確保しながら、路上から抜け出す道を探っている」と話す。

厚労省の担当者は「従来の施策だけでは必要な支援に結び付きにくい。もっと濃く関わっていく人材を確保しながら、路上から抜け出す道を探っている」と話す。

「子どもの力信じる」

野間児童賞の山本さん

野間児童文学賞に、元教員で児童文学作家の山本悦子さんの著作「神隠しの教室」(童心社)が選ばれた。物語に登場するのは、いじめや虐待に苦しむ小学生たち。山本さんは受賞会見で「私は子どもの力を信じています。苦しさの中に立ち止まっている子どもたちが動き出すエネルギーに、本が少しでも役立てたらいいなと思います」と話した。

同作では、小学校で複数の児童がこつせんと姿を消す「神隠し」が起きたことをきっかけに、一見普通に

受賞会見で「地元の小学生が今作の感想を『すごく面白かったよ。才能あると思うよ』と言ってくれました」と喜ぶ山本悦子さん



受賞会見で「地元の小学生が今作の感想を『すごく面白かったよ。才能あると思うよ』と言ってくれました」と喜ぶ山本悦子さん

山田洋次監督ら3組を表彰

フューチャリスト賞

市民の立場で平和活動に取り組む人物などをたたえる「澄和フューチャリスト賞」の表彰式が東京都内で開かれ、映画監督の山田洋次さん、建築家の津端修一さん(故人)と英子さんの夫妻、女優の神田さち子さんの3組が受賞した。

「男はつらいよ」シリーズなどで知られる山田監督は人々に夢や希望を与え、戦争が生んだ悲劇を描く作

面と作らねばならない映画が重なっている場合に、いちばん長いものができる。今だからこそ、それができるんじゃないか」と述べ、今後の製作活動に意欲を見せた。

津端修一さんは日本住宅公団(現・都市再生機構(UK))で多くのニュータウンを設計。その後、英子さんとともに植樹などを実施して自然と共生する街づくりに取り組んだ。

旧満州(中国東北部)で生まれた神田さんは、戦後、中国に取り残された女

「どんなに苦しい場所にしても、少し見方を変えて、そばに居る人と話したり手をつないだりしてみても、何か動けば、光が見えるかもしれない」と、悩んで生きる子どもにアドバイス。「本を読んで解決はしないかもしれないけれど、読書は心を耕す作業だと思います。この本が心の栄養になってくれたらと思っています」

悩む思春期に作家がエール

助川さん 森絵都さんら

「10歳の質問箱」が話題

「10歳の質問箱」(右)と「続10歳の質問箱」

とを娘が本で読んで「きーとして、貧乏のつらさとの反響が寄せられた。「外国が攻めてきたら、自身を小説『みかづき』自衛隊は戦うのか、アメリカは守ってくれるか」という問いへの作家浅田次郎さんや森さんの回答は具体的だ。

「男はつらいよ」シリーズなどで知られる山田監督は人々に夢や希望を与え、戦争が生んだ悲劇を描く作

面と作らねばならない映画が重なっている場合に、いちばん長いものができる。今だからこそ、それができるんじゃないか」と述べ、今後の製作活動に意欲を見せた。

伊勢新聞社の本 好評 発売中!

「こののなかった私の経験。日本のみなさんに伝えたいと思う。」

ニクドゥーセ、

著者

並河靖之 七宝展

明治七宝の誘惑-透明な黒の感性



平成の 10月

◆ 開催時間
◆ 入館料
◆ 主催
◆ 後援

